

篠窪麦打唄



町指定重要文化財
昭和 50 年 2 月 8 日指定

唄の一部

○雲らば雲れ

箱根山

晴れたとて

お江戸の宿は

みえやせぬ

○思いもよらぬ

伊勢土産

姉にや帯

妹にや紺の前掛

以下略

篠窪麦打唄

篠窪地区には、古くから麦打唄が伝えられています。
むぎうちうた

かつて同地区の農家では、麦を収穫し、乾燥させた後にクルリからさお（唐竿）と呼ばれる農具で麦を打ち、脱穀していました。その際、調子を合わせるために唄われていたのが麦打唄でした。しかし、大正時代（1912～1926年）に足踏脱穀機が普及し始めたことから、クルリが第一線を退いていき、麦打唄も次第に唄われなくなっていきました。1975（昭和50）年には、麦打唄が町の重要文化財に指定されました。その後、相和小学校では、創作の踊りをつけた麦打唄（テンポを原曲よりやや速くしている）が、学校行事で児童により披露されています。農作業の機械化などにより、麦打唄などの作業歌は全国的にも消滅傾向にあり、存在が危ぶまれています。地域に伝わる大切な宝として、町ではその保存に努めていきたいと考えています。